

- 神 楽 名 つが お
 梅尾神楽

- 伝 承 地 つが お
 梅尾地区
 椎葉村大字大河内梅尾

- 指 定 等 国指定重要無形民俗文化財

- 伝承団体 つが お
 梅尾神楽保存会
 代表 黒木照美



綱きり

□神楽の概要・由来・その他

梅尾地区は椎葉村の九州山地の山間地、小丸川上流右岸の急峻な山腹に位置し、旧南郷村と接している。天正の頃に、梅尾神社の初代神主である黒木濟門之助が、肥後の阿蘇神社より神楽を習得し梅尾に持ち帰り、五穀豊穰・無病息災を祈願し村人に伝えたと言われている。その後、戦中戦後も途絶えることなく、一年も休むことなく今日まで続けられている。

梅尾神楽の唱教の中には平安後期から中世にかけて流行した歌謡が唱われている等、近世以前の形式を残した神仏混合の神楽が伝えられている。祭りは3年に1度行われる願成就の大祭と、平年に行われる年祭りがあり、願成就の大祭には雄と雌の藁蛇が用意され、「綱入れ」「綱荒神」「綱きり」等の演目が奉納される。

□芸能の機会・場所

- 梅尾神社例大祭： 11月22～23日に梅尾神社拝殿にて奉納
- 祇園祭り、待ちもうけ祭、えんち祭等で、宮神楽を奉納

□演目一覧

しめおこし いた お 板起こし	つがもり	神迎え	宮神楽	老神楽 いちかぐら	供え物
1番:御神屋ほめ・どうぎ み こう や	2番:たいどの	3番:しめほめ	4番:地割 上 ち わり		
5番:地割 中 ち わり	6番:地割唱教 ち わり しやうぎやう	7番:地割 下 ち わり	8番:芝ひき		
9番:老神楽 いちかぐら	10番:稲荷神楽	11番:鬼神 きじん	12番:大神 上 だいじん		
13番:大神唱教 だいじんしやうぎやう	14番:大神 中 だいじん	15番:大神 下 だいじん	番外:芝入れ		
16番:樽入れ	17番:芝荒神 しばこうじん	18番:かんずい	19番:振上げ ふりあ		
20番:森 上	21番:森 下	22番:おび	23番:戸取り		
24番:矢	25番:弓唱教	26番:弓	27番:うば面		
28番:おきえ 上	番外:綱入れ	29番:おきえ 下	番外:芝入れ		
番外:樽入れ	30番:綱荒神 つなこうじん	31番:ござ 上	32番:ござ 下		
33番:たちから	34番:伊勢神楽	35番: しめかぐら 神楽	36番:火の神神楽 ひ かみ		
37番:七鬼神 しちきしん	38番:綱きり	番外:神送り			

平成26年11月の神楽奉納の番付に基づく

□演目の特徴

番付では 38 番としているが、番外の演目が複数あり、さらに祭式や神事を加えると実際の演目数は 50 番に及ぶ。「つがもり」では蔦葛つたかづらを持った祝子ほうりこが唱教をとなえるなか、祝子、氏子、参拝者全員が山型に持った蔦葛の下を潜り、谷型にしてはまたいで越す。本殿への神迎えに先立ち行われる演目で、祝子や参拝者を祓い清める意味があると言われている。「うば面」では、手拭いをかぶり裾模様の着物姿のうば面としが「歳としの神」と名乗り、腰をかがめて登場する。腰につけた“テゴ”と呼ばれる籠の中から、しゃもじ、すりこぎ、木椀と次々に取り出し、終始ユーモラスな動きで舞い、見学者の笑いを誘う。

□その他の特徴

- 面：鬼神、芝引き、荒神、戸取、うば面、手力、嫁女面よめじよ、女面 等。女面は現在未使用であるが、裏には“寛永九年”の墨銘が見られる。
- 楽：太鼓、笛かね（銅拍子）、太鼓に取り付けられた楽板。神迎えではほら貝が吹かれる。
- 装束：白の舞衣、紋付羽織まいぎぬ、袴、金の刺繍の舞衣、藍染め裾文様着物、烏帽子、侍烏帽子えぼし、シャグマ（五色のシデ垂の笠）、天冠、鉢巻、宝冠（紙）、等。
- 採り物：御幣めんぼう、面棒、扇、鈴（錫杖型）しゃくじょう、弓、矢、刀、帯、折敷おしき、樽、六尺棒、しゃもじ、すりこぎ、木椀、テゴ（籠） 等。
- 文書：伊勢神楽の唱教が記された寛政 8 年の「伊勢甚儀」、神楽の次第が記載された文政 11 年の「神事次第・年祭次第」など神楽に関する古い資料が数多く保管されている。

□伝承の現状・課題

かつては代譲りで親から子に伝承された演目があったが、昭和 40 年頃に神楽の伝承が途絶えることを危惧し、世襲制が廃止された。後継者不足に悩む中、日向市にも梅尾出身者による神楽保存会を作るなど、地区外に居住する出身者の協力も得て夜神楽が継承されている。



つがもり



芝ひき



弓